

# 永興島の大型戦闘機と地対空ミサイル

漢和防務評論 20181006(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

海南島亜龍湾から南東約 300km にある永興島は、中国が九段線で囲んだ海域の行政の中心として位置づけている島です。

中国はこの島に戦闘機が発進できる軍用飛行場を建設するとともに、長距離地対空ミサイルを配備しました。

同島は、最近南沙諸島の 3 つの珊瑚礁を埋め立てて建設した軍用飛行場（いずれも永興島から約 800km 南方）の後方支援を担当する役目もあります。

これらの島々はほとんど砂浜で、隠れる場所がありません。戦時には事前に撤収することになるのでしょうか？



永興島 (Googleearth)

KDR 東京特電：

種々の情報を総合すると：永興島（註：別名 Woody Island、中国海軍核潜水艦基地がある海南島の亜龍湾から南東に約 300km）には少なくとも 1 個大隊規模の J-11 シリーズ戦闘機が常時展開しているようだ。5 月に J-11 戦闘機が発見された。現在 16 個の格納庫が建設されている。各格納庫の幅は 30 メートルはある。

長年観察の結果、KDR は、永興島に HQ-9 地対空ミサイルが常駐しているのを確認した。今年になってから、特にレーダーはどこに配置されているのか見当たらなくなった。2017 年には、同じ陣地内に帆布で覆われていた。実際に運用

されているかどうか、勝手に推断することはできない。陣地全体は 2016 年前後に海面を埋め立てて建設された。2016 年に HQ-9 は進駐を開始している。したがって、たとえ一時的に撤収したとしても、それは臨時的な措置であろう。

KDR は、永興島に HQ-9 地对空ミサイルが長期間駐留する可能性があると考えている。今後、南シナ海の 3 個の大型人工島飛行場（註：永興島から南方約 800km にあるスピ礁、フェアリークロス礁、ミスチーフ礁を埋め立てて建設した飛行場）にも HQ-9 が配備される可能性がある。島嶼における施設、建築物はすべて大型である。

前進基地としての永興島は、有事には前述した人工島飛行場を戦略的に支援する役目がある。海軍基地建設は、基本的に完了した。

たとえ HQ-9 が配備されたとしても、これらの人工島基地は、攻撃されると極めて脆弱である。米国連合軍が今年シリアを攻撃した航空活動がそれを証明している。攻撃は射程 400KM 以上の空対地武器の大量使用とステルス戦闘機及び攻撃機、或いは B-2 戦略爆撃機が加わった。後者は一度に 80 個以上の誘導爆弾を投下し、多数目標或いは数個の目標を攻撃できる。しかも島嶼は、防衛上、縦深性がない。永興島に配備された射程 150KM の HQ-9A/B は、おおむね周辺国家の航空攻撃には対処できる。

以上